

Title	ホレイシヨ・パラビチノに関する一考察
Sub Title	
Author	今村, 三南子(Imamura, Minako)
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.42, No.2 (1969. 11) ,p.128(262)- 128(262)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	発表要旨 彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19691100-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

発表要旨

ホレイシヨ・パラビチノに関する一考察

今村 三南子

この研究は、エリザベス女王時代の政治と経済の一面を明らかにしようとするものです。

ホレイシヨ・パラビチノ Horatio Palavicino (1540~1600)

は、エリザベス朝時代のイタリア出身の商人貴族です。彼は、英国政府上層部と結び、金融業、独占業、外交等の広い分野にわたって活躍しています。このような人物がイタリア出身であつたということが、当時の英国の特殊性を示します。従つて、彼の事業の研究は、単なる伝記的興味にとどまらず、当時の政治・貿易・財政・社会変動に様々な光を投げかけるものです。

ホレイシヨは、ローマ法皇の保護の下に、明鑾産業の独占を行つていましたが、契約更新のトラブルにより、ローマを離れ英国にわたります。一方英国は、外交上財政上の理由で、ホレイシヨの大陸に於ける信用や財力を必要とします。このような利害関係の一致が、両者を次第に深く結びつけていったのです。

国内では、ホレイシヨは従来の在英イタリア金融業者と同様国家への貸付を行ないます。そこからもたらされる年金、有力者への融資、交易の独占権、徴税権等を得て、財力が急速に増大しま

す。更に、ホレイシヨは、その財力を利用して政治権力と密接に結び、イギリス国内で有利な地位につこうとします。この様に、政治と経済とを背景として英国に入りこみ、勢力をたかめていきます。一五八五年に帰化した後、一五八七年には駐独大使の職をも手にします。しかし、その後は英国外交の表面に出る事はありません。英国の国力が昂まり、英国人が登用される様になつた為です。

以上のように、ホレイシヨ・パラビチノの動きを通して、当時の英国の政治や経済の実情を解明したいと思ひます。(本塾大学院文学研究科修士課程在学)

一九一八年のドイツ革命

―社会民主党と労兵協議会との関係をとおして―

渡 辺 郁 美

ドイツでは第一次大戦末期、戦争による疲弊と平和への要求及びロシア革命の影響をうけて革命がおこつた。しかし、この革命は戦争という特殊な事情のもとでおこつたので、それを指導するエリート形成がおこなわれていなかった。そのため組織の大きかつた社会民主党が革命をリードしたが、この政党は、大衆を充分コントロールすることが出来なかつた。革命を指導する政党間に於いても又大衆との関係に於いても多くの問題をかかえていた。そこで、この革命を社会民主党と労兵協議会との関係をとお